

1 単元名 Unit4 Homestay in the United States

2 本単元の目標

習慣やマナーについて、have to や助動詞 must などを使用して書かれた文章の概要を捉えることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①have to、助動詞 must を用いた文の形・意味・用法を理解している。 技①have to、助動詞 must の意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。	思①習慣やマナーについて書かれた短い文章を読んで、概要や要点を捉えている。	態①習慣やマナーに違いがある人々と生活する際に生じる問題について書かれた文章の概要や要点を捉え、読もうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領の目標（2）読むこと（イ）「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。」を受けて設定した。

中学校第1学年では、助動詞 can を使って自分のできることを表現したり、助動詞 can を文頭に置いて疑問文にしたり、後ろに not を付けて否定文にして文を操作したりすることを学習してきた。そして、第2学年では、助動詞 must に加え、類似表現である have to を用いた表現の仕方の学習をしていく。これらの二つは否定文になると意味が異なる部分にも注意させながら授業を進めていく必要がある。

本単元ではホームステイという外国の文化と出会う場所が設定されている。ホームステイではホストファミリーの生活スタイルに合わせて過ごさなくてはならない。入浴や食事、帰宅時刻など「日常的な話題」に関して、トラブルに直面する文章を読む際に、困っていることは何か概要や要点を捉えられるようにしていき、ホームステイの悩み事をもつ人にどんなアドバイスができるかを考えていく。

生徒が実生活で海外にホームステイすることは考えにくいですが、同じ日本に住む人でも家庭によって異なる習慣やマナーはある。そこで、自分の家庭の house rules などにも触れて身近な生活の違いから異なる文化の習慣やマナーに目を向けられるようにしていきたい。また、単元の終わりには外国からの転校生がやってくるという設定で、自分の学校のルールやマナーについて紹介できるようにする。その中で自分たちの学校の決まりを再考したり、多様性について考えたりするようなきっかけにしたい。

(2) 生徒観

本単元を指導するにあたり、生徒の実態調査を行った（令和5年7月21日実施）。本学級の「英語は好きですか。」の問いに「はい」と答えた生徒は*人、「いいえ」と答えたのは*人と、苦手意識をもっている生徒がいる。レディネステスト（音読）では、既習の教科書本文を読む際に abroad や during を間違えて発音する生徒や、読めない生徒がいた。また、I'm going to～.の文を読む際に、be 動詞 m の音が欠落し I しか発音していない生徒もいた。これらのことから、本学級の生徒たちには、教科書の英文を細かいところに注意して音読することにより、基本的な英文を定着させ、自分の発する英語に自信をつけるための手立てを講じる必要があると考えた。

(3) 指導観

本単元では、Scene1 で have to と don't have to、Scene2 で must と must not の文を読みながらホームステイの生活で出合うルールとしての「～しなければならない」「～する必要がない」「～してはいけない」の文を読み、異文化に対する理解を深めていく。教科書本文や key sentence を、デジタル教科書を使用して何度も繰り返し音読し、文字と音を一致させていく。デジタル教科書で音声を聞く際には、音読のスピードを変えたり、スラッシュを入れて文を区切ったりしながら個人の目標に合わせた音読活動に取り組めるようにする。教科書で表現される文に触れながら、自分の日常の have to と don't have to は何かを考え、英語で表現することを通して理解を深めていきたい。また、house rules にも触れ、いつも一緒に過ごしているクラスメイトでも、それぞれの家のルールや決まりは異なるということを認識し、自分と異なるものやことに寛容な態度を育成したい。英語を通じて異文化に触れることで多様な人の在り方や考え方について知り、受容的な態度を養っていきつつ、自分自身や自分の家庭の house rules についても大切にできるようにしたい。

5 単元の指導計画（9 時間扱い）

次	時	学習内容・活動	評価方法・留意点等 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価・留意点等
1	1	Today's Goal have to や don't have to を使うとどのようなことが伝えられるのだろうか。 - 単元の目標を知り、学習の見通しをもつ。 Conclusion have to を使うと「しなければならない」ことを伝えられ、don't have to を使うと「する必要がない」ということを伝えられる。 - 本時の学習を振り返る。	○ 自分の身の回りのことを have to や don't to で表すことができるか見取り、できていない生徒には、have to の後には動詞の原形カードを提示し、選びながら文を作るよう助言する。 【知① ロイロノート】
2	2 3	Today's Goal must や must not はどんな時に使う語なのだろうか。 - 教科書を読んだり house rules を must や must not を使用して交流したり、身近なマナー等について must や must not で表現したりする。 Conclusion 「しなければならない」時には must、「してはいけない」と禁止を伝える時には must not を使う。 - 本時の学習を振り返る。	○ 教科書を読んで概要を捉えているか見取り、できていない生徒にはキーワードとなる単語の意味を確認することで概要を推測できるよう支援する。 【技① 観察】 ○ 学校や公共施設でのマナー等について、英文の内容が読み取れているかを見取り、できていない生徒には must not に続く動詞を提示し、内容が読み取れるよう支援する。 【技① ロイロノート】
3	4 5 6	Today's Goal ホームステイで起こる問題にどのように対処したらよいだろうか。 - 動名詞を用いた文構造を理解し Read and Think ①の単語や本文を確認する。 Conclusion 相手の文化や環境を尊重しながら、無理をしすぎずに、自分の考えを素直に伝えることが必要だ。 - 本時の学習を振り返る。	○ ホームステイで起きる問題にどのように対処するかアドバイスを考えられるか見取り、難しい生徒には I think you should～. の文を提示し、理由は日本語で書くよう伝え、主体的に取り組めようにする。 【態① ロイロノート】

4	7 本 時	目標：教科書を読んでホームステイで起きる問題を捉え、どのような表現で問題を解決したか読み取ることができる。 1 Greeting and Warming up ・あいさつをする。 ・英語の歌を歌う。 2 本時の課題を確認する。 【Today's Goal】 Today's Goal 海斗はホームステイでどのような問題があり、どのような表現で提案し問題を解決したのだろうか。 3 範読を聞く。 【View】 (1) デジタル教科書の音声聞く。 (2) A L T の範読を聞く。 4 教科書の本文の内容を確認する。 【Think】 ・新出単語の確認をする。 ・本文の内容を理解する。 5 デジタル教科書を使って音読をする。 (1)一人で読む。 (2)グループで読み、海斗の問題を明らかにする。 Conclusion 海斗は夜にすることがなかったので、ウィルソン夫人に Why don't we～？を使ってゲームをする提案をした。 6 カードを使用して、Why don't we～？の文を使用しながら相手を誘う表現を練習する。 【Interaction】 7 Communication Activity 友達を誘ってみよう。 【Use】 Watching basketball is very fun! Why don't we go to Mito and watch Robots? 8 本時の学習を振り返る。 【Reflection】	・ペアであいさつをすることでアイコンタクトを意識できるようにする。 ・英語の歌を歌い英語学習の雰囲気をつくる。 ・A L T がオーラルイントロダクションをし、内容の理解への動機付けをする。 ・英文の長さを把握したり特徴のある単語を聞き取ったりすることで、概要が想像できるようにする。 ・強弱や表情で内容の理解を助ける。 ・各自のデジタル教科書の準備をする。 ・必要に応じて日本語の意味を表示するように助言する。 ・必要に応じてスラッシュ読みにするか、センテンス読みにするか確認する。 ○ 本文を読んで、提案の表現を捉えているか見取り、できていない生徒には指導者やA L T が共に音読し概要を捉えられるよう支援する。 【思① 観察】 ・グループで音読し内容を把握する。 ・Today's Goal を確認するよう促す。 ・グループごとに考えた Conclusion を発表させるようにする。 ・指導者とA L T でのデモンストレーションを見ることで、練習の目的や表現の仕方を確認できるようにする。 ・Why don't we～？に続く語をカードで指定することで、多様な動詞に触れられるようにする。 ・Why don't we～？の文の前後に、どんな文を加えたら相手の興味が高まるかを考えて活動できるよう助言する。 ・ロイロノートで表現例を提示し、学習全体の内省ができるように声かけをする。
---	-------------	---	--

5	8	Today's Goal 転校生に英語で旭中学校のルールやマナーを伝えるにはどんな表現を使えばよいだろう。 ・グループで分担し合って英文を作成する。 Conclusion 転校生にルールやマナーを伝えるには have to や must、should、must not などを使う。 ・本時の学習を振り返る。	○ モデル文を読んで概要を捉えているか見取り、できていない生徒には、have to や must の後の動詞に注目させながら概要を捉え、主体的に読めるよう支援する。 【態① 観察】 ◎ 【技①思① ロイロノート】
6	9	Today's Goal 英語でお礼の手紙を書くにはどんな表現を使えばよいのだろうか。 ・お礼状を書く。 Conclusion お礼を伝えるには Thank you for ～. で伝えることができる。 ・本時の学習を振り返る。	・お礼の手紙のモデル文を読んで内容を捉えることが難しい生徒には、既習の単語の意味から内容を把握するよう助言する。 ◎ 【知①態① ワークシート】